
私の嘘

相模 怜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の嘘

【Nコード】

N9470G

【作者名】

相模 怜

【あらすじ】

私はあなたに嘘をつく。あなたに嫌われないように、誤魔化すの。騙すの。演じるの。 “あなた”に思いを告げられない“私”の詩みたいなもの。彼女の気持ちになって、唄うように読んでみて下さい。

あの日。初めて出会った日。
あなたは荒んだ眼をしていた。

この世に絶望したように。
この世に失望したように。

私も同じだったから思わず嘲笑していった。
ほらね、と。

人の世なんてただ醜いだけなのよ。

自分のことしか考えない。
目先の幸せにしか目がいかない。
正論という嘘を口にしてばかり。
他人のことを思いやれない。

世の中そんなニンゲン達ばかりよ。

だから私も絶望しているの。失望しているの。

…自分に。

私はこんな考え方しかできない自分が嫌いよ。大嫌いよ。

…あなたもそうなんでしょう？

ただただ醜い人の世が。
近くしか見えない愚かなニンゲン達が。
異端を嫌う世の常識が。

そして、それに自分も例外なく入ってしまったという事実が。

けれどあなたは一年もしないうちに変わった。

荒んだ眼をしなくなった。

絶望した眼をしなくなった。

失望した眼をしなくなった。

私と出会ったからじゃない。あいつと出会ったから。

あいつはあなたを変えていった。

あなたは笑顔を浮かべるようになった。

話すようになった。

笑うようになった。

幸せだと言うようになった。人のことを思うようになった。

幸せそうな寝顔。幸せそうな人生。

あなたを取り巻く空気が暖かくなった。

私にはないものだらけ。

私は怖くなった。

あなたに話しかけられること、笑顔を向けられること、優しくされる
ことが。

やめてよ。

見られたくない。

知られたくない。

気づかれたくない。

汚い私を。

私はあなたみたいに綺麗じゃない。

汚れた人の世を知ってそれでもなお、目を逸らさずに生きていける
ほど強くない。

私はあなたに嫌われたくない。失望されたくない。

こんなもんか、と思われたくない。

もう悲しみたくないの。

気づつきたくないの。

苦しみたくないの。

我儘だということは分かってる。

でももう見放されないように。

見捨てられないように。

裏切られないように。

私はあなたに嘘をつく。

本当の心を隠して。

あなたに嫌われないように、誤魔化すの。騙すの。演じるの。

ああ…ホント、酷いわね、私。

これじゃあ嫌われてしまうじゃない。

本末転倒ね。

でもこうすることしか思いつかない。

そんな自分が、私は大嫌いなよ。

こんな私に好かれてしまったあなたは、可哀相ね。心から同情する。運命なんてあるか分からないけど、もしあつたら呪うといいわ。

そしてついでに、私という存在を呪い殺してくれないかしらね。

私は人のことを、あなたの事さえも考えられない自分勝手なニンゲ
ンだから、生きていないほうが世のため人のため。

実際、今までずっととうとまれて生きてきたからね。

嫌われるのは慣れているのよ。

あなたと違って、私は汚れているわ。
心も体も。

でもあなたは違うんでしょう？

変わったんでしょう？

変わったんでしょう？

私にはあなたが眩しい。
変わったあなたがどうしようもなく眩しく見える。

… ホント、私とあなたじゃどうしようもないくらい不釣り合。

綺麗で強いあなたと、汚くて弱い私。

対照的な私達。

いつそ私のことを嫌ってくればいいのにね。

そうしたら私だって諦めがつくの。

あなたは本当に優しいから。

私を嫌ったりしないのよね。

… 期待させるようなこと言わないで欲しいし、しないで欲しいわ。
諦めきれなくなっちゃうじゃない。

なんだか天使に魅入られてしまった、悪魔みたい。

対象的だからこそ、惹かれたのかしら。

私は本当、あなたが羨ましいわ。

(後書き)

詩というよりもつづみやきですね。

今度彼視点のも書きたいですね。

ここまで読んでいただきありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9470g/>

私の嘘

2010年12月11日14時15分発行